



# キッズみんなの日記

8月号

キッズのみなさんにとっては、楽しい夏休み。日記の話にもこと欠きませんね。自然とふれあったり、水遊びを満喫したり、と楽しい夏休みを過ごしていることが日記から読み取れます。今月も楽しい夏休みの思い出、待っています♪

## 優秀作品紹介

### ★わかりやすく工夫して伝える★

いろみずをつくった

わたしは、がっこうで、あさがおをそだてています。おともだちのあさがおは、もうはながさいているけれども、わたしのは、まださいていません。たくんはながさいているおともだちから、はなを一つもらいました。

まず、ビニールぶくろにあさがおをいれて、みずをいれて、はなびらのぶぶんをよくもみます。すると、あおいおはなは、あおいみずができて、ピンクのおはなはうすいむらさきになりました。とておうちでは、おしろいはなでつくりました。とてもきれいなので、ごはんですよ！のびんにいれてつぐえのうえにかざりました。(小一・NHさん)

友達の朝顔と自分の朝顔の違い、また、朝顔から色水を作る過程をとても上手に説明していますね。どれほどきれいなのか、どのくらい気に入ったのかを「行動」で表現したところも上手ですね。「さいてる」と表現しがちな言葉もHちゃん「さいている」と美しい日本語を使っています！感心です。

### ★発見や感想を工夫して表現する★

ハウセンカ

学校で育てたハウセンカを、もう一学期が終わりなので、家に持って帰ってきました。

一日でも水をあげるのをわすれると、葉っぱが下をむき、しおれてしまいます。

でも、水をあげて少したつと、葉っぱが生き生きしてきます。私のがのがかわいた時、水をのむと、

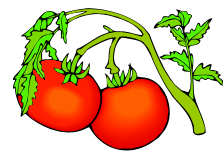


生き返ったような気持ちになるのと同じなのかなと思えました。(小三・KYさん)

ミニトマト

やったー、みがなった！早く食べよう。なんと、まちにまったミニトマトが緑から赤になったのです。さっそく、私は食べてみました。思ったより、すっぱくて私は、もう少し甘い方がよかったです。少しさんねんでした。でも、シャキシャキしていてとてもおいしかったです。

次の日、もう一こ赤くなっていました。こんどはお母さんに食べてもらいました。私が、「すっぱいでしょ。」と聞いたら、お母さんが「ううん、甘いよ。」と言いました。



次に、ミニトマトがなったらお父さんかお兄ちゃんに食べてもらいたいです。(小三・WMさん)

嬉しい気持ちを話し言葉で最初の一文に書くことで、非常に印象的な書き出しになっています。何の実がなったのだろうと読み手の興味をそそります。ミニトマトの味の感想も非常に具体的にわかりやすく、Mちゃんが、トマトを家族にも食べてもらいたいという思いも生き生きと表現されています！

### ★周囲の人の様子を生き生きと表現★

水泳

今日は、初めての水泳の部活でした。学年のプールは一回やっていたのですが、部活は初めてだったのでワクワクでした。四、五、六年生が部活に入れます。

いろんなことをした中で一番楽しかったのが、「流れるプール」といって、みんなでぐるぐる回ることです。



とです。先生のおえがなったら反対回りです。だんだん流れにのってきたので、反対回りのときは流れそうでした。手をつないでがんばって泳ぎました。「キヤー。うわあー。ギャー。」など、すごくおもしろかったです。水泳の部活をこれからがんばろうと思います。(小五・HEさん)

学校のプールから、Eちゃんと水泳部みんなの賑やかな声が聞こえてきそうですね。手作りの流れるプールの威力がかなりのものであったことも、みんなの叫び声や、泳いでいる様子を書くことで生き生きと表現しています！読んでいて、思わず笑みがこぼれる文章でした。

### 兄の最後のサッカー

朝、六実中学校へ行きました。それは、兄達が最後のサッカーだからです。六実中の広場に着的たら、ちようど円陣を組んでいました。円陣で感じたのは「気合いを入れて必ず勝つ」ということです。

母はサッカーのルールがよく知らないもので、応えんがせいっぱいでした。父は、兄がでる試合をビデオカメラでとっていました。

前半が終わって、父とビデオカメラを交わりました。それは、兄たちが最後のサッカーで、父が自分の目で試合を観たいからです。前半の時は一対零で負けました。後半になって、十分経ったら、一点決められて、結果は二対零でくやしい結果です。

次は、勝つと予想しましたが、次の試合の前半は一気に三点取られ、後半に二点取られ、合計五点も取られてしまいました。試合が終わり、五対零で負けました。

兄たちのおところに行くくと泣いていました。ぼくは、「よくやったよ。」と思いました。しばらくして、タオルをかかえるメンバーを見て、ぼくは(くやしいよね。)と思いました。(小五・NY君)



N君が自分のことのように、お兄さんの試合を見守り、応援し、負けた悔しさを察している様子がよく伝わってきますね。さらに、お母さんやお父さんも、大事な試合をそれぞれの思いを抱きながら応援している様子を實に見事に生き生きと表現できました！

お別れ会

今日学校で、転校してしまいう子のお別れ会をしました。みんな出し物などを用意していました。私達女子はげきをやることにしました。げきの題名は「ピノキオのその後」です。私は、きつねの役でピノキオをつれさる役でした。とても楽しかったです。

みんなの出し物が終わったら、次に、転校してしまいう榎田君と窪田君によせ書きをあげました。中には、泣いてしまいう子もいました。私も、少し泣きそうになってしまいました。別れるのはさみしいけど、二人には、絶対に私達のことには忘れて欲しくないです。(小六・UAさん)

友達の様子を描写することで、お別れ会の様子を生き生きと伝えていきますね。榎田君と窪田君のために、みんなで出し物を用意したこと、別れがづらいこと、Aちゃんの忘れて欲しいという強い気持ちが上手に表現されています。お見事！

気になる「なので」

～編集長市澤祥子の気まぐれコーナー～

連日の厳しい暑さに、少々夏バテ気味の今日この頃です。幼稚園も例外なく夏休みに入り、朝から奇声をあげ、家中を走り回る息子達のおかげで暑さは倍増です……。保護者の皆様の「苦勞もお察します。学校や幼稚園の有り難みが身にしますね。」

私事はさておき、日記添削を初めた当初から、非常に気になっておりました。それは、「なので」という言葉の使い方です。塾生のみなさんは日記のなかで、順当な結果が下にくるときに、頻繁にこの「なので」を使って文と文をつなぎますね。

例「今日は雨でした。なので、外では遊べませんでした。ところが、これは、日本語としてはおかしい。どうやらみなさんが使っている場面をみると、「なので…」と「こ

言葉が丁寧な表現だと思っているようなのです。決してフランクな友達同士の会話で使っているわけではないようです。さらに、この間違った日本語を使っているのは、圧倒的に女子が多いのです。音から柔らかい印象に聞こえるからかもしれません。しかし、私にとって非常に気持ち悪い言葉の一つです。しかも、口語表現(話し言葉)では、「なので」の語尾を伸ばしながら使われることが多く、私は、だらしのない印象を受けます。「ら抜き言葉」と同じ、もしくは、それ以上に気になる言葉です。

話し言葉で初めて聞いたのは、十年以上前でした。とある学習塾で面接の対応してくれた、聡明そうな女性講師の口から「なのでえ、来週からお願ひしたいのですがあ。」と言われた時の衝撃は今でも忘れられません。最初は、何かの間違いか、どこかの方言かとも思いましたが、彼女のほうが、時代の流れ(流行語)に私より敏感だったというだけのことだと後に気がつきました。そして、残念に思いました。なぜなら、彼女は国語の講師だったからです。聡明そうだとこの彼女の第一印象は私の中でもうくも崩れました。

「なので」は本来、「くなので」と文中で語と語をつなぐ役割をする言葉です。文と文をつなぐ「接続詞」ではなく、語と語をつなぐ「助動詞」+「助詞」です。

例「雨なので中止になった。」  
このように使うのが正しく、本来は文頭には来てはいけない語なのです。

「こんな話をする」と、「言葉は生き物だから変わって当然だ。今時の若者は…なんて言っているのはオバさんになった証拠だ。」と言っている人もいますが、気になるものは仕方がありません。それから、オバさんであるのも事実ですから！先日は、若い女子アナウンサーまでもが「なのでえ…」を連発していました。口語(話し言葉)としては、定着しつつあるようなので、違和感が残りますが、それは白歩譲って我慢することにします。しかし、文章を書くときだけでも、「だから」「したがって」「ゆえに」「そのため」など、正しく美しい日本語を使って欲しいと思います。

『梨セミ生は日記や作文の中では「なので」の使用禁止！』と言いたいところですが、言葉はいずれ変化していく性質があるということを考慮すると、そこまで強制もできません。『時代の流れに逆らうオバさんのささやかな抵抗にみなさんおつき合ってください』というお願い程度にとめておきます。

私自身、普段は言葉遣いが綺麗なわけでも、丁寧なわけでもなく、むしろ口は乱暴なほうだと思います。その証拠に我が家の息子達の口の悪さは天下第一品です。いつもは、「仮面ライダー」や「クレヨンしんちゃん」の見過ぎだテレビのせいにしてはいますが、間違いなく身近な私の影響なのでしょう。だから、偉そうなことを言える立場ではないのですが……。しかし、そんな私ですら気になる「ら抜き言葉」や「なので」は使いたしません。息子達も幼稚園児ながらもきちんとして、「今日は、あの番組見られる?」「お母さんはごろを食べられないよね。」と正しい日本語を使います。そして、自分たちの普段の言葉遣いが悪いということも自覚しています。

言葉が相手に与える印象は想像以上に大きいものです。そして、いつの日か、綺麗な日本語を話したり、書いたりすることがみなさんの役に立つ場面がくると信じて、正しく美しい日本語を紹介し、私が正しいと信じる添削を続けようと思えます。身近にこうした時代遅れの頑固者が一人くらい居ても良いですよ。

もうひとつ、美しい日本語を学ぶには、読書をする事です。今月の優秀作品で紹介した小学一年生のHちゃんも夏休みに決められた四十冊の本を読み、感想を書く課題があるそうです。その中には、伊藤先生が紹介したおすすめ本が何冊も入っています。Hちゃんの日本語が美しいのは、環境はもちろん、本人の努力の賜なのです。

誰にでも綺麗に響く正しい日本語が、少しずつ消えていくのは淋しいですね。「ら抜き」言葉はすでに、辞書にも載っているほど多くの人が使用している言葉になっていきます。文頭の「なので」も、いずれ当たり前のように使われるようになるかと思うと、私はやはり残念に思うので、みなさんは、どう思いますか。

**伊藤先生のおすすめ本**

★初級者★  
かこさとし からだの本2  
**たべものたび** 童心社  
かこさとし 著  
食べ物カゴから入って…さあ、最後はどうなるかな?自分の体のこと食べ物のこと楽しく知ることができる!冊です。

★★中級者★★  
**かくれ山の冒険** PHP 研究所  
富安洋子 著・イラスト  
雑木林のおかにドッジボールを盗みに入った男の子のお母が、かくれ山という異界に呼び込まれ必死に出口を探す冒険ストーリー。勇気と友情の素晴らしさを教えてくれる感動の!冊です。

★★★★上級者★★★★  
**走れセナ!** 講談社  
香坂直 著  
どっもハートフルな青春アスリート小説!主人公は5年生の女の子セナ。競技会の100メートル走でバンを走ろうが、2学期早々、陸上部が解散!どうする、セナ!